委員会名	2024 年度 第 3 回　生産技術委員会
開催日時	2024 年 9 月 5 日　16:00-17:30
開催場所	JX 石油開発㈱ 会議室 (Teams ハイブリッド開催)
出席者 （敬称略）	(現地) 巳波、山田、佐藤、知識、松山、中島、大内、舟橋、今井、村上、谷口、根本、荒木 (オンライン) 久々宇、矢島、椋平、池田、中田、阿部
議事	1.　事務報告 ・JAPEX 矢島氏がシンポジウム小委員に就任した。（資料 1） 2.　幹事会報告 ・知識委員より、幹事会議事概要（第 89 期 4 回および第 5 回）が報告された。 ・内容は第 89 期第 4 回幹事会議事資料_20240711.pdf および第 89 期第 5 回幹事会議事議事録（案）.docx（資料 2）を参照のこと。 Q&A • （根本委員）春季講演会で地下水学会と合同セッションを行うとなると、シンポジウムの準備も影響を受けるのか？ →（知識委員）現時点では地下水学会との合同セッションに関する詳細は未定。参加費の兼ね合いなど調整する部分も多く、まずは小規模な繋がりを持つところから始めることになると思われる。 →（村上委員長）現状、地下水学会との合同セッションについては、実現可能性はあると認識している程度。ただし、通常、開発生産部門だけでも数多くの個人講演・ポスター発表の応募があるので、開発生産部門との合同セッションは難しいかもしれない。 • （山田委員）シンポジウム原稿の締切の変更が検討されているとのことだが、各技術委員会から同じタイミングでシンポジウム原稿を出すことになるのか？ →（知識委員）今後、各技術委員会で議論されることになる。また、会誌編集委員会との調整も必要。 3.　理事会報告 ・村上委員長より、理事会での議事を報告した。 ・内容は石油技術協会_第 3 回理事会資料_20240820.pdf（資料 3）を参照のこと。 Q&A • （知識委員）会計管理の体制を改善する上で、本協会の法人化が望ましいということを皆さんが認識することが重要。現状、個人口座で管理している状況であり、潜在的に責任問題のリスクもある。 →（今井委員・大内委員）一般社団法人になるのか？法人化されると委員はどういう扱いになるか？ →（知識委員）NPO 法人であるため、できるだけ簡略化した体制にするべく、行政書士のアドバイスを受けながら検討が行われている。法人になると、税理士を起用しての決算が必要となる。 • （大内委員）天然水素について教えていただきたい。 →（村上委員長・知識委員・山田委員）天然水素は CIS などに偏在している模様。最近注目され始めているトピックであり、秋季講演会でも関連する講演が用意されている。 • （舟橋）SPE との共催ワークショップについて進捗はあるか。 →（今井委員）SPE 側では、2 か月に 1 回委員会が開催され、ワークショッ

プの準備が進められている。

4.　2025 年春季講演会のシンポジウム対応について

・シンポジウム小委員会で議論された 2025 年度春季講演会シンポジウムに向けた方針について、矢島委員が説明した。（資料 4）

・今後のアクションとしては、9～10 月頃から、他委員会や外部との共催是非といった枠組みの調整を開始する。

Q&A

（大内委員）地下水学会と合同セッションを開催する場合、どういったテーマでコラボできると考えているか？

（矢島委員）具体的なテーマは未定だが、地下水学会は探鉱委員会にも声をかけている。地下水学会としては CCS の文脈で考えている模様。

（大内委員）シンポジウムテーマでは CN という言葉がここ数年使われてきた。一方で、秋季講演会では低炭素という表現が使われている。これは、世の中のトレンドの変化を反映しているのか？

（知識委員）CCS は進み始めているので、今年度の秋季講演会では、低炭素や人材といったテーマに舵を切った。水素やアンモニアなど、CN・CCS に縛らず、より広いテーマ設定とした。

（今井委員）米国民主党政権は低炭素の潮流に歩調を合わせてきたが、共和党に政権が変わった場合、自国のエネルギー供給を優先する可能性が高い。本協会や日本の E&P 企業は長く EOR に関わってきた強みある。近年、CO2-EOR は CCUS の文脈で扱われることが多いが、CN から低炭素への世間の関心の揺り戻し・潮流の変化を捉えるのであれば、従来の CO2-EOR に改めて着目してもいいのでは。

（大内委員）何が低炭素化における現実解となるかについて報道・議論されており、そういった流れは石油業界にとってはプラスであろう。

（村上委員長）企業レベルでは、CN に向けた事業計画を既に出しているところが多く、難しい舵取りが要求される。

（知識委員）CN だけでなく、E&P による商業性確保が必要という二つの現実があり、本協会としては後者の重要性を打ち出すという路線も選択肢。

（根本委員）以上をまとめると、生産技術委員会としては、E&P 色を強めていくことに好意的な意見が多いことが分かる。

5.　次回開催場所案内

・次回は 11 月 1 日に東北大学にて委員会開催予定。

・協会の紹介、および、各社の活動紹介を行う（各社 5～8 分程度）。

	2024		2023
第 1 回	5 月　9 日（木）	JOGMEC	JOGMEC
第 2 回	7 月　4 日（木）	INPEX	INPEX
第 3 回	9 月　5 日（木）	JX	JX
第 4 回	11 月　1 日（金）	東北大学	九州大学
第 5 回	12 月　6 日（金）	秋田大学	京都大学
第 6 回	1 月　9 日（木）	JOE	出光
第 7 回	3 月　6 日（木）	JAPEX	JAPEX

6.　話題提供

Rang Dong の出砂対策について：村上委員長（JX 石油開発）

以上